第２回 MIRAI SAKAI EXPO 会議 議事要旨

○日時　令和８年 10 月 22 日（木）14:30～15:00

○場所　堺市役所 本館３階　大会議室

○主な出席者

堺市：

永藤市長、佐小副市長、本屋副市長、角田副市長、政策局長、文化観光局長、産業振興局長、
建築都市局長、建設局長、教育次長

経済団体等：

葛村堺商工会議所会頭、菊地堺観光コンベンション協会会長、堺商工会議所専務理事、
堺商工会議所常務理事、堺観光コンベンション協会専務理事兼事務局長、
さかい新事業創造センター代表取締役専務、堺市産業振興センター副理事長

○議事概要

会議の開催に先立ち、永藤市長、葛村堺商工会議所会頭から挨拶があり、その後、事務局及び各局・団体が万博レガシーを活かした取組の進捗状況、今後の展開、令和 9 年度以降の進め方について説明し、会議出席者間で意見交換した。意見交換では、堺旧港等における取組、堺の伝統産業の生産力強化、万博を契機とした次世代の挑戦等について議論された。

【永藤市長　挨拶要旨】

3 年前から皆様との協議の場を設け、開催期間中はより良い取組ができるよう、また閉幕後は万博レガシーを積極的に活用できるよう協議を進めてきた。10 月 13 日で万博の閉幕から 1 年が経ち、その前後の様々なイベントや閉幕 1 周年記念式典、堺市も出展した閉幕 1 周年イベント等を通じ、万博の記憶が今も多くの方々の中に生き続けていると実感している。これらは大阪、そして堺市の発展にもつながるものであり、今後も「堺大茶湯」の開催や「2027 年国際園芸博覧会」での共同出展をはじめ、堺市が万博で挑戦した取組を継続する。チェコ共和国等の国々との連携も続け、力を合わせて「いのち輝く未来社会」を築きたい。

【葛村堺商工会議所会頭　挨拶要旨】

3 年前からこうした会議を開催し、万博に関する取組をどのように知ってもらうか等を協議してきた。

名誉領事を務めるチェコ共和国のパビリオンを堺市に残すことや本国に持ち帰ること等を検討したが、様々な面で困難があり、日本で調達した椅子等をレガシーとして残すこととなった。万博では様々な共同研究が行われ、ナショナルデーには多くの要人の来訪により関係が結びついたので、堺市としても関係を次につなげることが大切だと思う。

堺まつりにおけるポルトガル共和国との関係強化、万博でのチェコ共和国との連携をきっかけに実施したボヘミアンガラスを活用した茶席など、関係性や取組を一過性でなく継続することが重要と考える。堺商工会議所としても堺市との連携を深め、協力して取り組む。

【万博レガシーを活かした取組の進捗状況及び今後の展開について】

・政策局長から、万博を契機に連携を深めた企業や大学等とのつながり・交流を活かした取組について説明。
・文化観光局長から、万博を契機に磨き上げた歴史文化資源を活用した誘客策や今後のレガシー活用イベントのほか、万博で交流を深めた国等への代表団派遣による国際交流、大屋根リングの木材を活用した模型、記念品、移動式茶室の制作について説明。
・産業振興局長から、万博を契機に注目が高まった伝統産業の生産力強化のための支援、万博を契機とした商店街の活性化、スタートアップイベントへの市内企業の参加等による堺発のイノベーション創出に向けた取組について説明。
・建築都市局長から、堺旧港における賑わい・交流の場の創出イベントや試行的なライトアップの取組、SMI 待合・休憩スペースへの大屋根リング木材の活用について説明。
・建設局長から、大和川サイクルラインを活用した「サイクルシティ堺」の魅力発信や、「2027 年国際園芸博覧会」への共同出展について説明。
・教育次長から、外国公館等と連携した特別授業の継続について説明。
・堺商工会議所から、オープンファクトリー等を通じた地元企業の認知度向上、連携促進及び企業価値向上に向けた取組について説明。
・事務局から、令和 9 年度以降も前回会議で確認した 4 つの方向性のもと、各局区・団体において万博レガシーを活かした取組を進め、相互に連携しながら継続・発展を図ることを説明。

【意見交換での主な発言】

・万博のレガシーとして、堺旧港等の魅力向上の取組はスピード感をもって進めることが必要。ライトアップによる夜間景観の実証実験や来年度に予定する親水護岸周辺の店舗設置など取組を進める。
・万博閉幕後も伝匠館の来場者数や刃物の売上が伸びている。手仕事の多い刃物業界において、生産量をどのように確保していくか、業界と協議しながら進める必要がある。市として工場用建物の取得や生産力強化に向けた支援を行うが、補助制度だけで実現するものではないことから、業界と連携しながら生産量の向上につなげる。
・万博期間中は、こども、若者、若手経営者の挑戦する姿が印象的であった。市としても茶の湯文化の発信において伝統を大切にしながら新たな挑戦を行った。万博で生まれた好奇心や変革の気持ちを、どのように新たな挑戦につなげるかが重要であることから、今後も関係団体と協議しながら進めたい。
・万博ではこれまで交流の機会が少なかった国々とも連携のきっかけが生まれた。これらを踏まえて、国際、文化、産業の各分野での交流を継続・発展させる。